

心を洗おう

卒業生の皆さん、ご来席の保護者の皆さま、ご卒業おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。一言お祝いの言葉を述べたいと思います。

大学生から社会人に

大学での4年間というものを、長かったと感じる人、あるいは、あっという間だったと思う人、人それぞれだと思います。大学生でいられるのも今日限り。明日から何らかの形で社会に出て、新しい人生を歩み始めることになります。大学院生の方はすでに社会人である方も多いと思いますが、いちおう院生としての学生の身分は終わることになります。

大学が皆さんの成長の手助けをするのも、今日までということになります。大学では、専門の知識を身につけるだけでなく、友だちを作ったり、サークルやボランティアの活動で充実感を味わったり、様々な形で成長があったと思います。私たちは、皆さんに一日でも早く一人前の社会人になってもらいたいと思って、そのための手助けをしてきました。

といっても、いきなり立派な社会人に皆がなれるのなら、何の苦勞もいらなわけですが、多くの方は少しずつ、一人前になってきたし、これからも成長していくことでしょう。

一人暮らし

皆さんの中には、4月から社会人となるのをきっかけに、あこがれの一人暮らしを始める人もいるでしょう。今までずっと親と一緒に暮らしてきて、何もかも親にやってもらっていたという人には、すべてが新しいことになるので、期待とともに、大変だという気持もあるかもしれません。

今まで通り、実家から勤め先に通うという人も、これまですべてが親がかりであったのなら、そこから脱却するいい機会だと考えてみて下さい。

下世話な話になりますが、一人暮らしをすると、洗濯、掃除、炊事、それに伴うゴミ出しなどの作業が重たくのしかかってくる。きれいにするのが好きな人、あるいは、お料理が得意な人にとっては、苦勞というよりは楽しみの種なのかもしれませんが、義務感にかられてしまうと、ついつい後回しにしたいくなります。

3つの動詞

今日は、毎日の暮らしに関連する3つの動詞の話をしたいと思います。(動詞というと、文法を思い出して嫌な気分になった人もいるかもしれませんが、少しか我慢して下さい。)3つの動詞というのは、「あらう」「かたづける」「ぶんべつする」の3つです。「あらう」というのはもちろん洗濯、「かたづける」は、掃除の一部、「ぶんべつする」はゴミ出しなどで大事なことになります。

ぶんべつする

順番を逆にして、まず、「ぶんべつする」から考えてみたいと思います。「ぶんべつ」というのは「分けて別にする」と書きます。ゴミ出しのときに、燃やすゴミだとか、ビン・缶だとか、資源ゴミだとか、それぞれ出す曜日が決まっています。何曜日に出さなくてはいけないか、これは住むところによって違いますので、もし引越しをするのであれば、よく確認しておきましょう。

全く同じ字で、「ふんべつ」という読み方もあります。これはもともと仏教の用語らしいのですが、この場合、分けるのは物事のよし悪し。「分別顔」とか「分別くさい」というと、物事がよく分かっている、要するに「大人だ」ということですね。（ただ、若干マイナスのイメージが伴うような気がします。）

皆さんも、これからますます大人になっていくのですから、「分別^{ぶんべつ}」は身につけていってほしいと思います。ただし「分別過ぎれば愚に返る」ということわざもあります。あまり考えすぎると、逆に愚かな選択をしてしまうということです。よく考えるとともに、あまり考えすぎないという、超絶技巧を身につけて賢い大人になっていってほしいと思います。

かたづける

2番目の「片付ける」ですが、これは整理をするということです。これもいろいろなものを整理することができます。人間関係も整理したいと思う人もいるかもしれません。具体的なものの整理とは違って、これはそう簡単にはいきません。大学と違って社会での人間関係は何重にも複雑です。あとで整理する必要のない、よい人間関係を築いていって下さい。

あらう

最後の「洗う」。食器などの洗い物、洗濯物、これはためてはいけません。ますます洗う気がおこらなくなります。その都度洗っていくというのがコツです。

もう一つ、時々でいいから洗ってほしいものがあります。それは「心」です。「命の洗濯」という言葉もありますが、「命」とか「心」というのは、ほっておくと、どんどん汚れていきます。社会に出ると、学生のときのようにはいかず、厳しい現実と直面し、自分の意志に反していろいろな行動をとらざるを得ないということもあるでしょう。そんなとき、自分の心が汚れた気になって落ちこむかもしれません。

でも、汚れは早いうちに洗えば落ちるものです。週に一度は心を洗いましょう。具体的には、何でもいいですが、自分の「心が洗われる」ものを一つはもって、命の洗濯をしていって下さい。こちらの方の洗濯は雨の日でも十分にできます。通勤時や休みの日に音楽を聞くのもいいし、映画を見に行つて、いつとき非現実の世界にひたるといのもいいでしょう。本が好きな人はどんどん読んで賢くなっていきましょう。

苔をつけない

何年か前の式辞でもとりあげたことわざなんですが、「転がる石に苔はつかない」ということわざがあります。これは、日本では「苔」というものが大事なものの、いいものと捉えられていて、「転がる」、つまり、しょっちゅう仕事を変えていると何も身につかない、という意

味で使われます。「苔」はつけてはいけないものとなります。英語でこれに対応することわざがあります: A rolling stone gathers no moss. この moss というのは「苔」ですが、英語では「苔」は排除すべきものとされています(主にアメリカでの解釈)。「転がらない」ということは、いつまでも同じことをしているということになります。石がじっとしていると苔がついてしまうので、どんどん転がって、苔がつかないようにしよう、これがこのことわざのもう一つの解釈になります。

「心を洗う」ということが上手になるということは、この意味での「苔」を落とす技術、これを身につけることになると思います。うまく洗うことができれば少々の汚れは気にならなくなります。そのようにしたたかに生きる技術を身につけていって下さい。

自分一人ではうまく洗えないという人は、たまに、このキャンパスに帰ってきて、懐しい先生に会ったり、チャペルの静粛さに触れるのもよいでしょう。私たちはいつでも、皆さんのような卒業生が帰ってくるのを待っています。

福島からのメッセージ

2年前になりますけれど、2011年に福島からカップルを招待して結婚式をあげるというイベントをおこないました。そのとき結婚式を挙げられた佐久間さん御夫妻から、去年の卒業式に、お祝いの電報が風船に乗って届きました。今年も卒業生の皆さん宛のメッセージを送って下さいましたので、ここに紹介します。

今日ここに晴れて卒業式を迎えられました皆様、心からお祝い申し上げます。

この学校生活を通じ、皆さんが得た一生の友人や皆さんを支えてくれた人々との絆、数々の思い出、単なる知識にとどまらない様々な学びなどの宝物は“生きる力”となって皆さんを支えてくれるものと信じています。大きな夢と自分らしさの輝きを失わず、元気に歩いていってください。

新しい世界でのご活躍をお祈りいたします。

今日は、この2時からチャペルで、外部の団体からの会長賞などをもらった人への表彰式を計画しています。この後学科にわかれて、学位記をもらったりしますが、大体2時ごろには落ちつくと思いますので、時間のある人は、仲間がそういう受賞をするのを一緒にお祝いしてあげて頂きたいと思います。佐久間さんから可愛い風船が贈られていますので、それもチャペルの前に飾っておきたいと思います。

もう一度、本日はおめでとうございました。